

家庭・地域の防災対策

私たちは災害による危険度(リスク)を0にすることはできませんが、0に近づけることはできます。
そのためには日頃から、災害に対する備えが必要です。何ができるか自分で考え、できることから実行しましょう。

月に一度は家庭防災会議

家族の防災意識を高めるため家庭で防災会議を開きましょう。
定期的な話し合いを積み重ねることで、いざというとき、落ち着いて適切な行動がとれるようになります。

家族への連絡手段や避難先をチェック！

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法を確認しておきましょう。

避難するときは、大きな字でメモを残すことが大切。



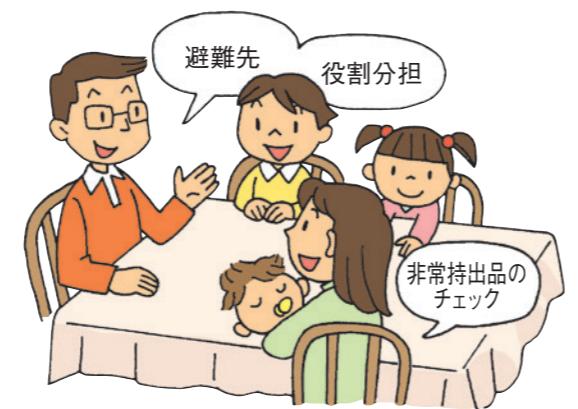
- 最寄りの避難場所を確認し、経路に危険な箇所がないか、実際に現地を歩いたり、ハザードマップを使って確かめましょう

一人ひとりの役割分担をチェック！

- 火の元や非常持出の担当などを定めておきましょう。非常時だけの担当ではなく、日常生活の中で、就寝前の火の元確認、防災備蓄品の確認を習慣付けましょう。
- お年寄りや乳幼児がいる場合には、介助・保護担当者を定めておきましょう。近所の協力を得られるとさらに安心です。

家の内外の安全チェック！

- 家具の配置換えや転倒・落下防止対策を行って、家の中の安全なスペースを確保しましょう。
- 家のまわりをぐるっとまわってみましょう。屋根、外壁、塀、プロパンガスボンベなどは大丈夫でしょうか。
- 家(建物)の耐震性を調べてみましょう。



消火器・救急箱のチェック！

- 消火器の設置場所や使い方を確認しておきましょう。
- 救急箱に必要なものは揃っていますか。また、包帯や三角巾などの使い方を練習してみましょう。

非常持出品などのチェック！

- 家族構成を考慮し、わが家に必要な備蓄物資の種類・数量を確認しましょう。
- 備蓄物資の保存状態や賞味期限を定期的に点検し、必要に応じて交換しましょう。

食糧関係
飲料水、レトルト食品や缶詰など (電気、水道などのライフラインは、復旧に時間がかかります。 3日間は自立して生活できる準備をしておきましょう)
救急医薬品
常備薬、消毒液、胃腸薬、三角巾、包帯など (常備薬は、日ごろから予備を用意しておきましょう)
衣類・衛生用品
衣類、肌着セット、靴下、軍手など ティッシュ、ウェットティッシュ、生理用品など(乳幼児がいる場合は、おむつ、バスタオルなども用意しておきましょう)
生活用品
携帯ラジオ、携帯電話、懐中電灯、乾電池、マスク、グローブなど
貴重品・その他
現金、通帳類、証書類、健康保険証、免許証、印鑑、めがね、笛、粉ミルク、アウトドア用品など(現金は小銭があると便利です)

地震を知る

- 駿河湾から日向灘沖の領域を震源とする南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は、80%程度とされています。県が平成25年に発表した「岐阜県南海トラフ巨大地震等被害調査」では、南海トラフ地震が発生した場合、市の最大震度は震度6弱の揺れが予測されています。
- また、南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まると評価されると、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表され、調査結果によっては、日頃からの地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難できる準備をする必要があります。
- 揖斐川町の北端から根尾地域を横断し関市まで伸びる揖斐川-武儀川(濃尾)断層による内陸直下地震について、県が平成31年に発表した「内陸直下地震に係る震度分布解析・被害想定調査結果」では、今後30年以内の発生確率は不明とされていますが、市の最大震度は震度6強の揺れが予測されています。

▶問い合わせ…総務課 ☎058-323-5191

「警戒レベル」を用いた避難情報の発令について

集中豪雨や台風などにより、水害や土砂災害などの災害が発生する恐れがあるとき、どの情報をもとにどのタイミングで避難するかを直感的に理解でき、それぞれの状況に応じて避難できるよう、令和元年から、災害発生の危険度と住民の皆さんとるべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いて伝えることになりました。

警戒 レベル	本巣市から 発出する情報	市民がとるべき行動	気象台から発表される情報			相当する 警戒 レベル
			降雨関係	危険度分布	氾濫情報	
警戒 レベル 5	緊急 安全確保	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。 ※警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません。	大雨 特別警報		氾濫 発生情報	警戒 レベル 5相当
警戒 レベル 4	避難指示	危険な場所から全員避難 ・指定避難所などへ、速やかに避難してください。 ・避難所までの移動が危険と感じたら、自宅の2階など少しでも安全な場所に移動してください。	土砂災害 警戒情報	極めて危険	氾濫 危険情報	警戒 レベル 4相当
警戒 レベル 3	高齢者等 避難	危険な場所から高齢者等は避難 ・避難に時間がかかる要配慮者(高齢者、乳幼児など)とその支援者は避難を開始してください。	大雨警報 (土砂災害・ 浸水) 洪水警報	警戒 (警報級)	氾濫 警戒情報	警戒 レベル 3相当
警戒 レベル 2	—	自らの避難行動の確認 ・洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップで、避難経路や避難のタイミングを確認しましょう。	大雨注意報 洪水注意報	注意報 (注意報級)	氾濫 注意情報	警戒 レベル 2相当
警戒 レベル 1	—	災害への心構えを高める ・最新の気象情報などに注意し、災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (警報級の 可能性)	—	—	警戒 レベル 1相当

洪水・土砂災害ハザードマップを確認しよう

令和5年2月に岐阜県より公表された洪水浸水想定区域図・水害危険情報図を基に、想定し得る最大規模の降雨を前提とした、河川ごとの浸水データを重ね合わせ、ハザードマップを作成しています。ハザードマップはweb公開してGIS地図で確認できますので、お住まいの地域の被害想定や避難所等の情報を確認し、災害に備えましょう。

<https://www.city.motosu.lg.jp/0000000979.html>

▼ハザードマップ



警戒レベルと警戒レベル相当情報の違い

「警戒レベル」は、市町村が発令する避難情報に付すもので、災害発生の恐れの高まりに応じて住民の皆さんとるべき行動と当該行動を住民に促す情報をとを関連付けるものです。

一方、「警戒レベル相当情報」は、国土交通省、気象庁、都道府県などが発表する防災気象情報に付すもので、住民の皆さんとるべき行動を判断するための参考となる状況情報です。

市町村では防災気象情報のほか、さまざまな情報を踏まえ避難情報を発令するため、同じレベル相当の防災気象情報と避難情報の出るタイミングが必ずしも同時になるわけではありません。

「自らの命は自らが守る」との意識を持って、防災気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとるよう心掛けましょう。